

平成 30 年度教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検・評価に関する報告書
(平成 29 年度事業対象)



(日吉津小学校)

平成 31 年 2 月

日吉津村教育委員会

目	次	頁
1	はじめに	1
2	点検・評価の基本方針	1
3	「第6次日吉津村総合計画」の基本計画第1章「人を愛する豊かな心を育てよう」における施策と指標の関係	1
4	教育委員会の活動状況について	1
5	教育委員会の組織及び主な担当業務	9
6	日吉津小学校の状況	9
7	米子市日吉津村中学校組合教育委員会について	10
8	教育委員会が取り組んでいる5項目30施策	10
9	自己点検・評価の考え方	12
10	事務執行状況の点検・評価票	13

1 はじめに

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、平成29年度に日吉津村教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行った結果についてまとめたものです。

2 点検・評価の基本方針

(1) 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検・評価を行い、その結果を議会に提出するとともに広く村民に公表しなければなりません。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

(2) 点検・評価の対象及び方法

本村の教育行政の主要施策については、村政運営の基本となる「第6次日吉津村総合計画」に掲げられています。総合計画は基本目標を「一人ひとりが輝き 夢はぐくむ村づくり」とし、「村民が村づくりの主役である」ことを認識するとともに、未来を担う子どもたちが誇りと夢をもって、心豊かに育つふるさとを築き、次代に引き継ぐことを目指しています。

教育委員会施策は、5項目30施策からなり、それぞれ具体的な成果指標を設定し、評価・見直し・公表を行っていくという行政評価の手法を取り入れています。

従って、この総合計画に掲げられている教育委員会の施策を対象とし、その指標の達成状況の把握を参考にしながら、平成29年度の取組みについて点検・評価を実施しました。

3. 「第6次日吉津村総合計画」の基本計画第1章「人を愛する豊かな心を育てよう」における施策と指標の関係

今回の点検・評価に当たっては、基本計画第1章における教育委員会の5施策、30の基本事業を総合計画審議会でも評価したものを基本としています。

4 教育委員会の活動状況について

《 教育委員会構成 》平成 31 年 2 月現在(評価時点)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	い だ ひろ ゆき 井 田 博 之	H28. 6. 17 ~ H31. 6. 16
教 育 長 職 務 代 行 者	まつ もと たか ふみ 松 本 公 文	H28. 10. 1 ~ H32. 9. 30
委 員	しも ぐち てつ じ 下 口 哲 司	H27. 10. 7 ~ H31. 10. 6
委 員	おん だ じゅん こ 音 田 純 子	H30. 10. 1 ~ H34. 9. 30
委 員	さわ た ゆう じ 澤 田 裕 二	H30. 4. 1 ~ H33. 3. 31

《 教育委員会構成 》平成 29 年度中(評価対象年度中)

職 名	氏 名	任 期
教 育 長	い だ ひろ ゆき 井 田 博 之	H28. 6. 17 ~ H31. 6. 16
教 育 長 職 務 代 行 者	まつ もと たか ふみ 松 本 公 文	H28. 10. 1 ~ H32. 9. 30
委 員	しも ぐち てつ じ 下 口 哲 司	H27. 10. 7 ~ H31. 10. 6
委 員	おん だ じゅん こ 音 田 純 子	H26. 10. 1 ~ H30. 9. 30
委 員	欠 員	

《 会 議 》

教育委員会の主な活動のひとつは、教育に関する重要な案件の審議等を行う「会議」です。「会議」は原則として毎月中旬～下旬に定例会を開催し、必要に応じて臨時会、視察等を行っています。平成 29 年度は下表のとおり、定例会 12 回、臨時会 1 回を開催し、議案 13 件、協議事項 25 件、報告事項 19 件について審議等を行いました。

平成 29 年 4 月定例会（平成 29 年 4 月 28 日（金））

番 号	件 名	結 果
議案 1	小学校教務主任等の任命について	原案可決
議案 2	日吉津小学校評議員の委嘱について	原案可決
議案 3	スポーツ推進員の委嘱について	原案可決
議案 4	準要保護児童の認定について	原案可決
協議事項(1)	日吉津村の特色ある外国語活動について(継続協議)	協 議
協議事項(2)	西部地区町村教育委員会連絡協議会総会	協 議
協議事項(3)	第 11 回中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	協 議
報告事項(1)	日吉津村陸上ユニフォーム購入について	報 告
報告事項(2)	学校の課外活動で行われる水泳の飛び込み指導に係る調査結果について	報 告
報告事項(3)	児童生徒の自主的・実践的態度を育てる学校づくり「リップだより」	報 告

平成 29 年 5 月定例会（平成 29 年 5 月 25 日（木））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	小学校計画訪問について	協 議
協議事項(2)	鳥取県市町村教育委員会研究協議会について	協 議
協議事項(3)	O,K セミナー in 美祢について	協 議
報告事項(1)	水泳の飛込指導について	報 告

平成 29 年 6 月定例会（平成 29 年 6 月 27 日（火））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	日吉津村議会 6 月定例議会について	協 議
協議事項(2)	小学校外国語教育について	協 議
協議事項(3)	小学校計画訪問について	協 議
協議事項(4)	村指定文化財について	協 議
報告事項(1)	小学生陸上ユニフォームについて	報 告

平成 28 年 7 月定例会（平成 28 年 7 月 22 日（金））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	小学校で発生しているいじめ事象等について	協 議
協議事項(2)	フィリピンからの転入学児童について	協 議
協議事項(3)	小学校計画訪問について	協 議
協議事項(4)	村教育委員研修について	協 議
協議事項(5)	村指定文化財について	協 議
報告事項(1)	各郡市町村における水泳大会での飛び込みの可否状況について	報 告
報告事項(2)	全国学力・学習状況調査結果の公表に係る県教委の考え方について	報 告
報告事項(3)	人材育成交流事業について	報 告
報告事項(4)	「ひえづのうた」について	報 告

平成 29 年 8 月定例会（平成 29 年 8 月 25 日（金））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	村教育委員視察研修について 「教えて考えさせる授業」	協 議
報告事項(1)	全国学力・学習状況調査の結果について	報 告

平成 29 年 9 月定例会（平成 29 年 9 月 28 日（木））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	日吉津村議会 9 月定例議会について	協 議
報告事項(1)	全国学力・学習状況調査の結果について	報 告
報告事項(2)	県民スポレク祭について	報 告
報告事項(3)	「ひえづのうた」について	報 告
報告事項(4)	人材育成交流事業について	報 告

平成 29 年 10 月定例会（平成 29 年 10 月 25 日（水））

番 号	件 名	結 果
議案 5	教育委員発議の議題について ①村民運動会について	継続審議
議案 6	教育委員発議の議題について ②中・高校生の人材育成交流について	継続審議
報告事項(1)	学力・学習状況調査の公表について	報 告

平成 29 年 11 月定例会（平成 29 年 11 月 30 日（木））

番 号	件 名	結 果
議案 7	日吉津村いじめ防止基本方針の改正について	原案可決
議案 8	学校職員の勤怠システム導入に係る規則等の改正について ①日吉津村立小・中学校管理規則	原案可決
議案 9	学校職員の勤怠システム導入に係る規則等の改正について ②日吉津村立学校職員の服務に関する規程	原案可決
協議事項(1)	教育に関する事務管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書について	協 議
協議事項(2)	日吉津村議会 12 月定例議会について	協 議
報告事項(1)	小学校の様子について	報 告

平成 29 年 12 月定例会（平成 29 年 12 月 21 日（木））

番 号	件 名	結 果
議案 10	準要保護児童変更申請について	原案可決
協議事項(1)	30 人学級について	協 議
協議事項(2)	西部地区町村教育委員会連絡協議会合同研修会 について	協 議
報告事項(1)	日吉津村議会 12 月定例議会について	報 告

平成 30 年 1 月定例会（平成 30 年 1 月 25 日（木））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	教育に関する事務管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書について	協 議

平成 30 年 2 月定例会（平成 30 年 2 月 22 日（木））

番 号	件 名	結 果
協議事項(1)	教育に関する事務管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書について	協 議
協議事項(2)	日吉津村教育委員会 3 月臨時会の開催について	協 議
協議事項(3)	日吉津村都市計画審議会委員の推薦について	協 議

平成 30 年 3 月臨時会（平成 30 年 3 月 14 日（水））

番 号	件 名	結 果
報告事項(1)	平成 30 年度教職員人事について	報 告

平成 30 年 3 月定例会（平成 29 年 3 月 23 日（金））

番 号	件 名	結 果
議案 11	準要保護児童の認定について	現案可決
議案 12	日吉津村立小・中学校管理規則について	現案可決
議案 13	日吉津村立学校職員の服務に関する規程	現案可決
報告事項(1)	日吉津村議会 3 月定例議会について	報 告

《日吉津村総合教育会議》

平成 26 年 6 月の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴い、平成 27 年度から村長と教育委員会との協議・調整の場である「総合教育会議」を村長が設置するとともに、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することが義務付けられました。

平成 29 年度は、平成 30 年 2 月 7 日に開催し日吉津村教育大綱の一部改正やそれに基づく施策、平成 30 年度予算について提案し、可決されました。

日吉津村教育大綱

平成 28 年 1 月 28 日策定

平成 29 年 2 月 23 日一部改正

平成 30 年 2 月 7 日一部改正

1 大綱の性格と基本理念

この大綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 条の 3 第 1 項の規定に基づき、日吉津村の教育・文化振興に関する総合的な施策について目指す方向と施策の根本となる方針を定めるものです。

【基本理念】

21 世紀をたくましくしなやかに生きるための学力の定着
生きがいと豊かさを実感できる生涯学習の推進

2 学校教育

○就学前教育

①保小連携

保育所と小学校の連携を図り、幼児教育と学校教育が連続して実践される体制を作ります。

②保育の質の向上

発達と学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図ります。

③子育て・親育ち支援の推進

就労、家族状況など社会の変化に即した親の育ちを応援する学びの場の提供や体験型の学習機会など福祉等と連携し推進します。

○小学校教育

①確かな学力の定着

少人数学級によるきめ細やかな指導により、基礎的・基本的な知識技能を習得させるとともに、コミュニケーション能力を高め、児童の個に応じた学力の伸長を図ります。自らの将来を展望し、主体的に学び続ける児童の育成を目指し取り組みます。

②未来を切り開くたくましく自立した子どもの育成

自然環境や地域の人材をいかした教育内容を創造し、ふるさとに誇りを持ち、人と関わり合いながら、自然体験、社会体験、交流活動などの体験活動を充実させ、心豊かな人間性、社会性を育みます。

③特別支援教育の充実

特別支援教育の理解と充実を図り、誰もが可能性を広げ、個性や能力を伸ばしながら、ともに支え合い、成長していく意欲を育てます。

また、障がいのある児童と障がいのない児童が可能な限り共に学び、共に成長するための教育環境を構築します。

④開かれた学校

P T A活動、子ども会、自治会、各種団体との連携を図り、地域の教育力を活用した開かれた学校教育を実践します。

⑤教職員の資質の向上

児童が「わかる喜び」「できるたのしさ」を実感する学習意欲を高める授業作りを目指し、各種の研究事業や研修の場を設け、教職員の資質や指導力の継続的な開発を図ります。

○中学校教育

①小中連携の推進

将来の進路を見据え、一貫した教育方針のもと連携を図ります。

②教育機能の整備

米子市日吉津村中学校組合教育委員会、米子市日吉津村中学校組合議会を通じ、教育機能がさらに充実するよう施設・備品の整備を推進します。

③ 関係組織の連携

いじめ、不登校、問題行動等早急に解決しなければならない課題への対応を迅速的確に進めるため、関係組織の連携強化を図ります。

○ 日吉津村の将来を担う人材の育成

日吉津村の将来の発展に寄与する、幅広い視野とグローバルな視点をもった人材を育成します。

○ 防災教育

- ① 自然災害に対する認識を充実させる教育を推進します。
- ② 防災意識を高める教育を推進します。

3 社会教育

○ 生涯学習の推進

① 学校、家庭、地域の連携（GUTS日吉津っ子の育成）

学校・地域社会・家庭が連携を図りながら、それぞれの場を活かした取り組みを展開します。学校教育と社会教育の連携・融合事業による「GUTS（ガッツ）日吉津っ子」の発展的な取り組みを推進します。

② 学習機会、内容の拡充・支援

多様化する村民の学習ニーズを把握し、誰もがいつでも、個人・団体にあった方法で参加できるよう、学習機会及び内容の拡充に努めます。

③ 各種団体・グループの育成と指導者養成

生涯にわたって意欲的に学ぶ団体やグループの育成に努めるとともに、その学習成果を地域や家庭に還元し、地域の課題解決に向け取り組んでいく人づくりや活動をリードする指導者の養成を進めます。

○ 子どもを地域ぐるみで育てる体制の充実

子どもたちにかかわる大人のネットワークや研修体制を構築します。

○ 人権尊重の村づくり

- ① 「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」の策定同和問題をはじめ、さまざまな人権課題の解決に向けた「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」に基づき、施策の推進に努めます。

② 人権・同和教育研修の充実

「村人権・同和教育推進協議会」の活動推進に努め、小地域懇談会や保育・学校教育との連携、企業・事業所での研修、行政関係職員の研修の充実を図り、理解を深めます。

○生涯読書の推進

①読書活動の推進

ヴィレステひえづ内の村立図書館を中心として、生涯にわたる読書の推進活動を展開し、村民の読書及び読書活動を活発化します。子ども図書館等との連携による幼児児童の読書推進や生涯読書の推進、県立図書館との連携による図書サービスの充実を図ります。

②図書館の整備

村民のニーズを踏まえ、村民に役立つ情報提供や生涯読書を推進する公共図書館の整備を行います。

4. 社会体育

①村民総スポーツの推進

体力保持、健康増進のために、各世代の参画や村民自ら企画運営に参画できる体制作りや指導者養成に努め、村民総スポーツの推進を図ります。

②スポーツ団体、スポーツ少年団の自主的活動の支援

各種団体・サークルの活動を支援するとともに、指導者の確保・養成に取り組みます。

③スポーツに親しみやすい環境作り

農業者トレーニングセンター、海浜運動公園、日野川河川敷運動公園等、体育施設の整備に努めます。

5 伝統・文化の継承保存

民俗資料館の適正な管理運営に努めるとともに、地域の文化財を身近に感じ、ふるさとの歴史や文化についての理解を深める機会を提供します。

《学校訪問》

教育委員は、村立小学校における教育活動の状況を把握し、課題や取組状況について学校と教育委員の共通理解を深め、日吉津村の教育行政の更なる充実と発展に資することを目的に年間を通して計画的に学校訪問を行っています。

学校訪問の内容は、管理職等との学校運営の状況、成果、課題などの情報交換や授業参観などです。平成 29 年度は下記のとおり実施しました。

訪問日	訪問学校名
平成 29 年 6 月 27 日	日吉津村立日吉津小学校

《視察研修等への参加》

教育委員は、年間を通して、教育行政に関する情報収集、教育に関する調査、研究のために視察研修等へ参加しています。平成 29 年度は下表のとおり

りです。

開催日	事業名・内容	場所
平成 29 年 5 月 22 日	西部地区町村教育委員連絡協議会総会・研修会	ヴィンステヒエブ
平成 29 年 7 月 14 日	縣市町村教育委員会定期総会・研究大会	倉吉市
平成 29 年 8 月 17～18 日	村教育委員会視察研修 O,K セミナー in 美祢	山口県美祢市
平成 30 年 1 月 18 日	西部町村教育委員会連絡協議会研修会	ヴィンステヒエブ

《学校行事等への参加》

教育委員は、年間を通して個人または全員（複数）で、小・中学校の行事等へ参加し、教育活動の状況等の把握に努めています。平成 29 年度の主な参加行事等は下表のとおりです。

開催日	学校名	内容
平成 29 年 4 月 10 日	日吉津小学校	入学式
平成 29 年 4 月 10 日	箕蚊屋中学校	入学式
平成 29 年 5 月 27 日	日吉津小学校	運動会
平成 29 年 9 月 4 日	箕蚊屋中学校	体育祭
平成 29 年 10 月 21 日	日吉津小学校	きらきらフェスティバル
平成 29 年 11 月 3～4 日	箕蚊屋中学校	文化祭
平成 30 年 3 月 9 日	箕蚊屋中学校	卒業式
平成 30 年 3 月 19 日	日吉津小学校	卒業式

《関係行事等への参加》

教育委員は、年間を通して関係行事等へ参加しています。平成 29 年度の参加行事等は次表のとおりです。

開催日	事業名・内容	場所
平成 29 年 4 月 9 日	チューリップマラソン大会	日野川河川敷
平成 29 年 7 月 22 日	村生涯学習村づくり大会	ヴィンステヒエブ
平成 29 年 10 月 8 日	村民運動会	小学校グラウンド
平成 29 年 11 月 4～5 日	日吉津村ふれあいフェスタ	ヴィンステヒエブ 小学校体育館
平成 30 年 1 月 3 日	村成人式	ヴィンステヒエブ
平成 30 年 3 月 25 日	村人権・同和教育研究集会	ヴィンステヒエブ
平成 30 年 3 月 11 日	村芸能大会	ヴィンステヒエブ

5 教育委員会の組織及び主な担当業務

教育委員会の組織及び主な担当業務は、次のとおりです。

教育委員会—事務局	—	教育総務係	教育委員会の運営 学校事務、教育財産の管理、教育予算
	—	学校教育係	就学前及び学校教育の指導
	—	社会教育係	社会教育、生涯学習
	—	人権・同和教育係	人権教育推進
	—	青少年育成係	青少年育成
	—	文化財保護係	村文化財、民俗資料館
	—	社会体育係	生涯スポーツ、体育協会、スポーツ少年団
	—	コミュニティセンター	生涯学習、コミュニティ活動
	—	図書館	図書館法に規定する図書館業務
	—	小学校	
		米子市日吉津村中学校組合立箕蚊屋中学校	

6 日吉津小学校の状況

日吉津小学校の状況は次のとおりです。

(1) 生徒数及び学級数 H29.5.1 現在 (単位：人、学級)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	内特別支援	合計
男子	15	17	15	15	15	21	(5)	
女子	17	14	14	13	18	17	(3)	
合計	32	31	29	28	33	38	(8)	191
学級数	2	2	1	1	1	2	3	12

(2) 学校施設

区 分	施 設 規 模
校地面積	18,947 m ² 校舎 7,273 m ² 校庭 9,978 m ² プール 1,969 m ²
校舎	教室棟 RC造3階 2,030 m ² 、管理棟 RC造平屋 425 m ² 特別教室棟 RC造2階 467 m ² 特別附属棟 W造2階 697 m ² 体育館 S造平屋 998 m ²
空調設備	教室棟、管理棟、特別教室棟、特別附属棟の全室空調完備

太陽光発電	60Kw(30Kw×2台) 30Kwは防災対応型(自立運転機能付)
耐震等	耐震補強、非構造物の耐震化対応済み
防災拠点化 (防災機能強化)	体育館避難所対応(非常用発電、空調設備) 職員室災害対策室として無停電化(太陽光発電 10Kw・蓄電設備 16.1Kwh)

7 米子市日吉津村中学校組合教育委員会について

米子市日吉津村中学校組合は、組合を組織する米子市（巖地区、春日地区、伯仙地区）と日吉津村の中学校事務を共同処理するため、組合立箕蚊屋中学校を設置し、箕蚊屋中学校に関する教育事務を管理執行するもので、組合の執行機関としての教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条に規定する事務を管理執行しています。

8 教育委員会が取り組んでいる5項目26施策

1. 生涯学習のむらづくり

施 策	頁
①学校、家庭、地域の連携（GUTS日吉津っ子の育成）	I-1
②読書推進活動と公共図書館サービスの充実	I-2
③生涯学習の推進	I-3
③生涯学習の推進(デジタルアーカイブ)	I-4

2. 学校教育の振興

1) 就学前教育

施 策	頁
①保小連携など、教育機関相互の連携	I-5
②家庭教育・子育て支援の推進	I-6

2) 義務教育

(1) 小学校教育

施 策	頁
①活力のある学校づくり	I-7
①活力のある学校づくり(陸上及び体幹指導)	I-8
①活力のある学校づくり(スクールソーシャルワーカー)	I-9
②社会に適應できる子どもの育成	I-10
③特別支援教育の充実	I-11
④開かれた学校教育の実践	I-12
⑤教職員の資質の向上	I-13

(2) 中学校教育

施 策	頁
①教育機能の整備	I - 14
②社会教育分野の取り組み	I - 15
③関係組織の連携強化	I - 16

3. 社会教育とコミュニティ活動

施 策	頁
①学習機会、内容の拡充、支援	I - 17
①学習機会、内容の拡充、支援(地元人材育成奨学金支援事業)	I - 18
②各種団体・グループの育成と指導者養成	I - 19
②各種団体・グループの育成と指導者養成(中・高校生) I - 23 へ	I - 20
②各種団体・グループの育成と指導者養成(ゲストティーチャー) I - 23 へ	I - 21
④各種イベントの開催	I - 22
④各種イベントの開催(ヴィレステひえづボランティア)	I - 23
④各種イベントの開催(グループ育成事業) I - 23 へ	I - 24
⑤民俗資料館の管理運営と地域文化振興	I - 25

4. 社会体育の振興

1) スポーツ・レクリエーション活動と施設整備

施 策	頁
①村民総スポーツの推進	I - 26
②各種大会の開催	I - 27
③少年スポーツの健全育成	I - 28
④指導者の確保・育成	I - 29
⑤施設の適正管理と有効活用	I - 30

5. 人権尊重・同和問題への取り組み

施 策	頁
①「あらゆる差別をなくす総合計画」の策定	I - 31
②人権・同和教育研修の充実	I - 32
③村人権・同和教育推進協議会の活動推進	I - 33

9 自己点検・評価の考え方

教育委員会が平成 29 年度に実施した事業に対して、教育委員自らが点検・評価しています。

また、点検・評価を実施するにあたっては、目標に対する達成度や進捗状況等を勘案しながら総合的に評価することとし、次に掲げる区分によって評価しています。

【施策評価基準】

(5 段階の施策評価方法)

評価	目的等の重要度(期待)	コストパフォーマンス	目標等の達成度(成果)	関連波及効果
	※この施策の目的が、現在、村として重要度、あるいは優先度が高いかどうか。また、今後への期待度が高いかどうかを評価するもの。	※前年同様の成果を得るために、予算・人員・時間などを節約できたか。あるいは、予算・人員・時間などは前年同様でも、成果が高まったかどうかを評価するもの。	※当該年度において、施策の目標がどの程度達成され、成果があったかを評価するもの。	※その施策の実施によって、(所期の目的以外に)何か波及効果があったかどうかを評価するもの。(例えば、「村民との協働性」「人材育成」「環境への配慮」など)
A	施策としての重要度・優先度が極めて高い。(今後大いに期待できる)	コストパフォーマンスが極めて高かった。	目標が十分達成され、極めて大きな成果(効果)があった。	施策の実施により、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮など波及効果が極めて高かった。
B	施策としての重要度・優先度が高い。(今後に期待できる)	コストパフォーマンスが高かった。	目標に向かって、成果(効果)があった。	成果により、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮など、波及効果があった。
C	施策の重要度・優先度は普通。村の施策として引き続き進めたい。	概ね前年同様に施策が実施された。	目標が概ね達成され、一定の成果(効果)があった。	特段には波及効果はなかった。
D	施策としての重要度・優先度はあまり高くない。(今後の期待度も低い)	コストパフォーマンスが低かった。	目標があまり達成されず課題が残り、改善の余地がある。	あまり成果がなかったために、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮などに課題が残った。
E	施策としての重要度・優先度が極めて低い。(今後の期待度も極めて低い)	コストパフォーマンスが極めて低かった。	目標は達成されず、課題は大きく、抜本的な見直しが必要である。	成果がなかったために、村民との協働性・納得性・人材育成・環境への配慮などに課題が大きい。

10 事務執行状況の点検・評価票

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
1. 生涯学習の村づくり	施策	(P25) ①学校、家庭、地域の連携(GUTS日吉津っ子の育成)	実施期間	継続	団体等	村内各種団体組織と連携
平成29年度実施状況						
実施状況	◇カルチャー土曜塾 ・5つの定期コース(漢字・パソコン・日本文化・スポーツ・ものづくり)全6回と体験コース(日野川探検)を実施。 体験コース(雪遊び)はインフルエンザ蔓延により中止。 ・児童の参加実人数80人、講師・ボランティアの参加実人数23人					
成果等	・漢字検定やタイピング検定への挑戦が児童の自信につながった。 ・縦割りの活動をすることで、上級生のリーダーとしての意識が醸成された。 ・児童の日吉津村への愛着が増した。					
課題	・「GUTS(ガッツ)日吉津っ子」育成事業の整理と、地域での理解を深め、地域の協力者を増員が必要。 ・各種団体との連携と共通認識をさらに高めることが必要。					
平成29年度施策評価						
評価項目	庁内評価			教育委員評価		
目的等の重要度	将来、日吉津村を担う者を育成するためには、学校・家庭・地域の連携の重要度は極めて高い。	A	土曜日を活用して児童に関わることは重要	A		
コストパフォーマンス	H26年度からの備品整備により、経費削減が出来た。	B	過度なコストパフォーマンス追求は不要、障害と思う。	B		
目標等の達成度	学校・家庭・地域の連携についてはやや課題が残る。	C	スローガン「GUTS」の浸透のため「G」「U」「T」「S」のイニシャルの意味づけのアピールを望む。	C		
関連波及効果	地域の協働性が増した。	B		B		
実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)						
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)		
平成29年度	予算	消耗品費、備品購入費	314	県支出金	313	
	実績	消耗品費、備品購入費	301	一般財源	1	
(平成30年度)	予算	消耗品費	300	県支出金	250	
				一般財源	50	
(平成31年度)	計画	消耗品費	300	県支出金	166	
				一般財源	134	
(平成32年度)	計画	消耗品費	300	県支出金	166	
				一般財源	134	
教育委員の意見・指摘						
新学習指導要領により、土曜授業、長期休業の在り方を検討する時期に来ている。						

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他	
1. 生涯学習の村づくり	施策	(P25)	実施期間	H17~ 継続	団体等	
		②読書推進活動と公共図書館サービスの充実				

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の収集と登録(H29年度3034冊購入) ・利用の促進(利用者登録H30年3月末現在2,230人) ・子育て・シニア・ティーンズなどニーズに応じた図書コーナーの設置(いきいきコーナー・すくすくコーナー・ティーンズコーナー・季節ごとのテーマ展示) ・はーとふるコーナー新設 ・小学校・保育所共催の読書推進活動の実施(読む読むキャンペーン) ・県立図書館との連携による相互貸借により、利用者のニーズに対応。 ・図書館に関連する講演会・イベントの開催。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる年代の村民が利用しやすいように環境を整備し、図書館サービスを提供した。(H29年度貸出数66,281冊) ・計画的に資料を収集することができた。(H29年度末31,265冊所蔵) ・小学校との連携 ・県立図書館との連携(H29年度相互貸借929冊)により、利用者のニーズに応えた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が読書活動だけにとどまらず、住民の問題解決ができたり、居場所づくり、就学・就労のきっかけづくりになったりするなど、様々な機能があることについて広く周知することができなかつた。利便性から村外の利用者が徐々に増えつつある中、村の図書館を住民にさらに活用してもらえるように利用促進を図ったが、村内利用はあまり増加しなかつた。住民の方への周知方法を検討しなければならない。

平成29年度施策評価			
評価項目	庁内評価	教育委員評価	
目的等の重要度	複合施設の機能を活かして、図書館サービスを展開することにより、村民の読書活動が活発化することは、村民の生涯学習の重要拠点となる。	A	A
コストパフォーマンス	ICタグ利用により、スピードかつ正確に貸出・返却業務や蔵書管理を行うことができた。	A	A
目標等の達成度	計画的に蔵書を収集し読書環境は整いつつある。新規イベントもでき村民へのアプローチはできたが、住民の新規利用者は微増だった。	B	微増は十分な目標達成と評価で良いと思う。 B
関連波及効果	他課の事業と連携することで事業の参加者が増えたり、図書館を利用するきっかけになったりと相乗効果が見られた。	B	B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	備品購入費、委託料、使用料	18,605	県支出金 2,596 繰入金 1,685 一般財源 14,324
	実績	備品購入費、委託料、使用料	15,779	県支出金 2,982 繰入金 1,540 一般財源 11,257
(平成30年度)	予算	備品購入費、委託料、使用料	15,846	県支出金 2,036 一般財源 13,810
(平成31年度)	計画	備品購入費、委託料、使用料	15,000	県支出金 1,200 一般財源 13,800
(平成32年度)	計画	備品購入費、委託料、使用料	15,000	県支出金 1,200 一般財源 13,800

教育委員の意見・指摘
村民より読書感想文を公募する等、村民の関わりを密にする。調べ学習等により小学校図書館と併用することの推進。

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体		
1. 生涯学習の村づくり	施策	(P25) ③生涯学習活動の推進	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
			実施期間	H14～ 継続	団体等

平成29年度実施状況

実施状況	<p>◇生涯学習むらづくり推進大会(7月22日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践発表「3B体操グループ」「ヴィルステ楽座」「富吉青春部」と大山町教育委員会教育長 鷲見 寛幸さんの講演「大山の魅力再発見 ー大山開山1300年祭に向けてー」(参加者37人) ・グループ活動紹介を展示や冊子で配布した(フラダンス(夜)、中国画、大正琴、3B体操、カラオケ(昼)カナリア、太極拳、ひえづ女性コーラス、ヨガ、囲碁・将棋、ヴィルステ茶道、押花、陶芸、カラオケ(夜の部)、フラダンス(昼)、郷土研究、俳句) <p>◇ふれあいフェスタ(文化の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月4日、5日に開催【出展者数 33団体(前年比-2)、10個人(前年比+1)、作品展示会場入場者数 2,268人(前年比-1,410)
成果等	<p>◇生涯学習むらづくり推進大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で活動している方の実践を発表する場が出来た。 ・講演により大山の歴史に触れ、郷土愛や大山の魅力を再認識できた。 <p>◇ふれあいフェスタ(文化の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な団体・グループ、村民一般から多数の作品の出展があり、村民全体の文化活動の成果を発表することができた。
課題	<p>◇生涯学習むらづくり推進大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティづくりの学習機会の提供。 <p>◇ふれあいフェスタ(文化の部)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出展者が減少しないように新たに新出展者を呼びかける必要がある。

平成29年度施策評価

評価項目	庁内評価	教育委員評価
目的等の重要度	豊かな心づくり、まちづくりにとって重要度は極めて高い。 村民の創作意欲を高め、生活文化の振興を図るなど重要度は極めて高い	A
コストパフォーマンス	出演者が自ら搬入、搬出を行う。後片付け実施。	A
目標等の達成度	活動の成果や課題が見えて、今後の実践の方向性が見えてきた。 村民全体の文化活動の成果が発表できた 新たな実践者が発掘できた。	A
関連波及効果	広場のイベントなどとの相乗効果で、多方面との交流が図られた。 村民のニーズの把握ができた。	A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)

年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 報償費、役務費等	35	一般財源 35
	実績 報償費、役務費等	31	一般財源 31
(平成30年度)	予算 報償費、役務費等	35	一般財源 35
(平成31年度)	計画 報償費、役務費等	35	一般財源 35
(平成32年度)	計画 報償費、役務費等	35	一般財源 35

教育委員の意見・指摘

出展団体の減少は今後も高齢化等により進んで行くと考えられる。また、マンネリ化している。それが入場数減にもつながっている。小学校体育館とヴィルステに会場が分散している事も要因となっている。団体の在り方、二会場のマッチングを工夫する必要がある。

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他	
1. 生涯学習の村づくり	施策	(P25) ③生涯学習活動の推進	実施期間		新規	団体等

平成29年度実施状況	
実施状況	先進的な取り組みを行っているホームページを閲覧し、機能確認等を行った。 県立図書館の郷土史料デジタル化計画(平成30年度～)の動向調査。
成果等	デジタルアーカイブについてさまざまな手法や規模について認識を深めた。 デジタルアーカイブシステム構築費用について認識を深めた。
課題	デジタル化事業に要する人的配置・体制づくり。 庁舎内でデジタルアーカイブ化について共通認識と推進協議。 県立図書館のデジタル化構想に各自治体が参加できるとすれば、どのような準備が必要か調査が必要。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	本村の歴史や風俗を未来に残すデジタル化は日吉津村への愛着や郷土の誇りを持つことにつながる。	B	利用価値の有無にかかわらず保存して残していくことは重要と考える	B
コストパフォーマンス	具体的な予算を立てていないため、研究・調査のみ行った	C		C
目標等の達成度	デジタル化にむけての具体的な計画を立てることができなかった。	C		C
関連波及効果	デジタル化事業が県内外で見られる中でじらつかの準備・計画をする体制づくりが必要。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算		-	
	実績		-	
(平成30年度)	予算		-	
(平成31年度)	計画		-	
(平成32年度)	計画		-	

教育委員の意見・指摘
将来的にはデジタル化した物を小学生の郷土への愛着、誇りを持つ教材として使用できたら良い。

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他	
2. 学校教育の振興 1) 就学前教育	施策	(P26) ①保小連携など、教育機関相互の連携	実施期間		継続	団体等

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇日吉津村教育協議会(小学校・保育所・児童館・子育て支援センター)の開催 ◇保小連絡会の開催 定期開催年4回 随時開催 ◇保小合同研修会の開催 ◇保保合同研修会の開催 ◇小学校教員と保育士の授業交流 参観日や授業交流の相互参観は日常的に実施
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所、児童館、子育て支援センターとも相互に連絡を取り合い、必要に応じて小学校と情報や課題を共有することにより、子どもの成長に合わせた支援をすることができた。 ・保育所年長児と小学5年生が交流を行うなどの具体的な連携により、入学時の適応に効果を上げた。 ・小学校教職員の日吉津保育所での保育体験により、保育の実態を具体的に知ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日吉津村の保小連携の流れをつなぐ小中連携をどう実践していくか ・保小の職員の交流をどのように進めていくか

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	教育機関の連携協働の重要度はきわめて高い	A	特に小中連携の実践が必要 保小一貫教育の重要度は高い	A
コストパフォーマンス	研修会や交流活動においても、費用をかけずにやっている。	A		A
目標等の達成度	就学児の不適応が起きていない	A	村外施設にかよう幼児も含め不適応をださない取組は高評価	A
関連波及効果	各機関の連携によって子ども自身の支援になるだけでなく、保護者からの相談がどの機関でも情報共有できるようになり、家庭の安心感につながっている。	A		A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算		-	
	実績		-	
(平成30年度)	予算		-	
(平成31年度)	計画		-	
(平成32年度)	計画		-	

教育委員の意見・指摘
 日吉津村だから実践できる保小一貫教育があると思います。学習面も含め、更なる連携が可能ではと考えられる。幼稚園機能を備えた保育園が求められているのではと感じる。

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 1) 就学前教育	施策	(P26) ②家庭教育・子育て支援の推進	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭教育の重要性の発信 とっとり子育て親育ちプログラムの保育所保護者実施 全保護者実施 定例化 ◇研修会の開催 新1年保護者対象に研修会を実施 就学時健診時 ◇家族ふれあい読書の推進に係る研修や講演会の実施 ◇家庭と連携を図った基本的な生活習慣の定着や強化週間の設定 ◇村立図書館を活用した読書推進 ◇第3子以降私立幼稚園就園費無償化事業 ◇私立幼稚園就園奨励費補助事業 ◇PDCAサイクルに沿った園評価の実施と公表 ◇保護者の子育て相談体制の整備
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の年間研修計画が年度当初に立てられ、意図的、計画的な研修実践により、保育士の指導力向上につながっている。 ・子育て支援プロジェクト(福祉保健課・教育委員会・児童館・子育て支援センター・子育てアドバイザーによる組織)で各機関でPDCAサイクルを意識した取組がなされている。 ・保育所への指導助言など要望と必要に応じて行うことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と協働した基礎的な生活習慣及び学習習慣の定着の取組の発信 ・村民による学校支援ボランティアについての学校支援コーディネーターの確保

平成29年度施策評価			
評価項目	庁内評価		教育委員評価
目的等の重要度	日吉津村の次世代育成に係る課題で重要度は極めて高い。	A	A
コストパフォーマンス	関係機関が連携を図り、県の資源や他町との協働によってコストを抑え、効果を上げている。	A	コストパフォーマンスが高いことは高く評価できる部分だが、それが目標にならない注意が必要では
目標等の達成度	各機関のPDCAサイクルが機能し、目標達成が図られている。	A	A
関連波及効果	早期からの計画的な支援を行い、家庭を含めた支援のための情報を関係機関で共有できる。	A	A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 賃金、報償費、委託料、負担金補助及び交付金	791	国庫補助金 93 一般財源 698
	実績 賃金、報償費、委託料、負担金補助及び交付金	724	国庫補助金 224 一般財源 500
(平成30年度)	予算 賃金、報償費、委託料、負担金補助及び交付金	2,893	国庫補助金 663 一般財源 2,230
(平成31年度)	計画 賃金、報償費、委託料、負担金補助及び交付金	2,893	国庫補助金 663 一般財源 2,230
(平成32年度)	計画 賃金、報償費、委託料、負担金補助及び交付金	2,893	国庫補助金 663 一般財源 2,230

教育委員の意見・指摘

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体		(○)村直営 ()団体 ()その他	
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施策	(P27) ①活力のある学校づくり	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況

実施状況	<p>◇農産物生産体験事業・・・社会科や総合的な学習のなかで、地域の生産者をゲストティーチャーとして迎え、大豆づくりを年間を通じて体験する学習を進める。収穫祭をゲストティーチャーとともにいき、収穫の喜びと感謝の気持ちを育てた。</p> <p>◇老人クラブとの交流事業・・・サツマイモづくりを通じて高齢者との交流を図った。収穫祭をともにいき、収穫の喜びと感謝の気持ちを育てた。年間を通じて、学校敷地内の除草作業を通じた交流を行った。</p> <p>◇クラブ活動で、囲碁・将棋・茶道・ヨガ等を教わった。</p> <p>◇小学校校庭芝生維持管理事業・・・芝生化による運動促進、体力の向上、多様な遊戯活動が来ている。ボランティアの維持管理活動を通して学校、家庭、地域の連帯強化と拠点づくりを行った。</p> <p>◇人材育成交流事業・・・沖縄読谷村の伝統文化の体験や人々の交流及び平和学習を通し、①郷土に生きる自覚を促すとともに友情と連携の精神を養い、②郷土の文化や歴史に気づき、自ら次代を担う村民の一員としての自覚を促すとともに自立の精神を養った。</p> <p>◇水泳特別指導事業・・・「卒業までに100m以上泳げるようになる」を目標に夏季休業中に、水泳専門員による指導を行い、全児童に具体的な目標を持たせることにより、自信や達成感を与え、日吉津小学校の卒業生としての誇りを持たせることが出来た。</p>
成果等	<p>・子どもたちは、直接指導を受けられることにより、教師の支援、指導以上の学習内容と地域の方との交流や地域との結びつきが豊かになり、大切な体験的学習となっている。</p> <p>・郷土愛、感謝、友情、自立心、克己心などを育て、誇りが持てる子ども達になっている。</p>
課題	<p>・様々な学習の輪を広げ、学社連携を行う。</p>

平成29年度施策評価

評価項目	庁内評価	教育委員評価
目的等の重要度	地域の人と交流しながらの学習体験は、重要度が高い 自信や達成感、郷土愛や誇りを持たせることは大切	体験的学習は重要
コストパフォーマンス	地域ボランティアの協力により、交流事業を行った	
目標等の達成度	地域の人から教えてもらうことで、家庭や学校では学べないことを身につけることができ、児童にとって重要な交流・体験学習となっている	
関連波及効果	学校と地域との交流(児童の学習意欲・活力ある学校運営など波及効果は大きい)	

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)

年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 賃金、消耗品、燃料費、旅費、負担金補助及び交付金	2,172	一般財源 2,172
	実績 賃金、消耗品、燃料費、旅費、負担金補助及び交付金	1,703	一般財源 1,703
(平成30年度)	予算 賃金、消耗品、燃料費	851	一般財源 851
(平成31年度)	計画 賃金、消耗品、燃料費	851	一般財源 851
(平成32年度)	計画 賃金、消耗品、燃料費	851	一般財源 851

教育委員の意見・指摘

学校農園の更なる活用。クラブ活動も教育の一環としての再認識。人材育成交流については増員が可能であれば多くの児童を参加させたい。

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(太田)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施策	(P27)	実施期間	継続	団体等	
		①活力のある学校づくり				

平成29年度実施状況	
実施状況	◇外部指導者による陸上及び体幹指導講習会の実施
成果等	・陸上の基礎的な技術の習得 ・体幹運動、バランス感覚の習得 ・指導者の意識、指導技術の向上
課題	・外部の人材の専門性のさらなる活用

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	次世代の体力作りで重要度は極めて高い。	A		A
コストパフォーマンス	コストを抑え、効果を上げている。	A		A
目標等の達成度	児童の意識改革に貢献している。	A		A
関連波及効果	体力、技術力の向上。	A		A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報償費	200	一般財源 200
	実績	報償費	200	一般財源 200
(平成30年度)	予算	報償費	200	一般財源 200
(平成31年度)	計画	報償費	200	一般財源 200
(平成32年度)	計画	報償費	200	一般財源 200

教育委員の意見・指摘	

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(太田)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施策	(P27) ①活力のある学校づくり	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ◇問題を抱える児童が置かれた環境への働きかけを延べ52件行った <ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境支援や発達障がい等に関する支援 ◇関係機関との連携を延べ78件行った <ul style="list-style-type: none"> ・福祉保健課や医療機関, 児童相談所等との連絡・調整・情報交換等 ◇教職員への研修を1回行った <ul style="list-style-type: none"> ・日吉津小学校教職員対象 ◇地域対象の研修を1回行った <ul style="list-style-type: none"> ・日吉津村オレンジリボンキャンペーンとして
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉保健課と連携して問題を抱える児童が置かれた環境へのはたらきかけを行い, 改善の兆しが見られた。 ・日吉津小学校の教職員に対して, SSWを配置した背景について周知することができた。
課題	

平成29年度施策評価			
評価項目	庁内評価		教育委員評価
目的等の重要度	家庭支援は喫緊の課題であり重要度は高い	A	A
コストパフォーマンス	他課, 他機関との協働により, コストパフォーマンスは非常に高い	A	A
目標等の達成度	児童の教育環境の改善につながった	A	A
関連波及効果	関係機関との連携が深まった	A	A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 賃金、旅費、消耗品、使用料及び賃借料	1,905	県支出金 1,033 一般財源 872
	実績 賃金、旅費、消耗品、使用料及び賃借料	1,553	県支出金 938 一般財源 615
(平成30年度)	予算 賃金、旅費、消耗品、使用料及び賃借料	1,813	県支出金 1,033 一般財源 780
(平成31年度)	計画 賃金、旅費、消耗品、使用料及び賃借料	1,813	県支出金 1,033 一般財源 780
(平成32年度)	計画 賃金、旅費、消耗品、使用料及び賃借料	1,813	県支出金 1,033 一般財源 780

教育委員の意見・指摘
社会環境、家庭状況が複雑化しており、教職員の研修も含め、児童・家庭への観察力・洞察力が重要と感じる。

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施策	(P27)	実施期間	継続	団体等	
		②社会に適應できる子どもの育成				

平成29年度実施状況	
実施状況	◇パソコンやインターネットを活用した学習の推進 ◇外国語指導助手(ALT)による外国語活動の実施(5・6年生における英語学習、4年生以下における国際理解学習として実施) ◇情報通信技術(ICT)の利用・活用教育のための、機器整備(H27～H29 プロジェクター、実物投映機、マグネットスクリーン等)
成果等	・パソコンやインターネットを活用した学習の推進 ・外国語指導助手(ALT)による外国語活動の推進
課題	・H30年度以降導入予定の外国青年招致事業の活用

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	情報化教育、国際感覚の取得の重要度は高い	B	英語学習の重要度は高い。情報過多に於ける教育は重要。	B
コストパフォーマンス	限られた予算で、情報教育環境の整備及び機器更新が行えた。	A		A
目標等の達成度	情報教育、国際感覚の取得に役立った。	A		A
関連波及効果	情報教育、国際感覚の状況について、参観日などを通して保護者に伝えた。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	委託料、使用料、備品購入費等	2,354	繰入金 416 一般財源 1,938
	実績	委託料、使用料、備品購入費等	2,481	繰入金 395 一般財源 2,086
(平成30年度)	予算	委託料	331	一般財源 331
(平成31年度)	計画	委託料	384	一般財源 384
(平成32年度)	計画	委託料	384	一般財源 384

教育委員の意見・指摘	
パソコン、インターネットは現代に於いて身近な物になり、正しく扱う教育は重要と考える。	

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2) 義務教育 (1) 小学校教育	施策 (P27) ③特別支援教育の充実	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級を3学級設置し、個別指導の充実を図った。毎月LD(学習障がい)等専門員の訪問をうけ、児童の状況を職員で把握し、対応を図っている。また、就学相談については校内で特別支援教育コーディネーターを配置し、担任と保護者や特別支援学校や医療機関など校外の関係機関につないでいる。 病弱学級を開設した。(医療的ケアのため看護師を配置した。(H26~))
成果等	保護者の合意形成のもとに児童の障がいの状況に応じた特別支援学級の設置がなされている。近隣の特別支援学校と担任が連携を図り、障がいに応じた専門的な教育を充実させることができた。特別支援学級以外の困り感を持つ子どもたちについては特別支援学校との通級指導教室を利用するなど具体的に個人に応じた対応を行うことができた。
課題	さらに個に応じた指導や支援を充実させていく。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	児童一人ひとりの個性に応じた教育の重要度は極めて高い	A		A
コストパフォーマンス	医療的ケアに対し適切に対応出来た	A	今後対応範囲の拡大が予想されるが、予算計画の予算内での対応に不安があるのでは。	A
目標等の達成度	きめ細かい指導ができた	A		A
関連波及効果	交流学習により、相互の理解を一層深めた	A		A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)					
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)	
平成29年度	予算	賃金等	3,280	県支出金	2,168
				一般財源	1,112
(平成30年度)	実績	賃金等	3,159	県支出金	2,104
				一般財源	1,055
(平成31年度)	予算	賃金、備品購入費等	3,552	県支出金	2,168
				一般財源	1,384
(平成32年度)	計画	賃金、扶助費等	3,310	県支出金	2,168
				一般財源	1,142
(平成33年度)	計画	賃金、扶助費等	3,310	県支出金	2,168
				一般財源	1,142

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (1)小学校教育	施策 (P27) ④開かれた学校教育の実践	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	◇クラブ活動や総合学習へのゲストティーチャー招聘 ・PTA活動、地域子ども会、自治会、各種団体との連携を図るとともに、地域の教育力を活用し、地域の伝統や文化を伝え、「生きる力」を育んだ。
成果等	・地域の教育力の活用は、子どもたちの学習をより充実させるという効果をもたらしているが、学校に来られる地域の指導者や保護者にとっても、子どもたちとのふれあいは大きな喜びとなっている。
課題	・学社連携の推進。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	地域に根ざした学校教育は、重要度が高い	B		B
コストパフォーマンス	地域ボランティアの協力により事業を行った。	A		A
目標等の達成度	ゲストティーチャーの定着。 読書量の増加。	B	目標と読書量との関係が不明	B
関連波及効果	地域との関り、読書活動の重要性など村民に広く知ってもらうことができた。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	-	
	実績	-	
(平成30年度)	予算	-	
(平成31年度)	計画	-	
(平成32年度)	計画	-	

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
2. 学校教育の振興 2) 義務教育 (1) 小学校教育	施策	(P27) ⑤教職員の資質の向上	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の質的向上を図るため、教職員の資質や指導力の向上に努めた。 ・「教えて考えさせる授業」研修により教職員の指導力向上を図り、児童の「理解・問題解決・定着」を図った。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業セミナー」へ参加。(教育長、指導主事、校長、教頭、教員) ・専門家を招いて「教えて考えさせる授業」校内研修会を実施し、教職員の指導力向上を図った。 ・講師を招いて、授業方法の研修を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通しての講師の確保。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	教職員の質的向上を目指した学校教育の充実は重要度が高い	A	資質とは何を指すのか。その指標となるものを具体的目標に掲げることを望む。	A
コストパフォーマンス	概ね前年同様に施策が実施された。	C		C
目標等の達成度	研究会等で様々なスキルを学び、指導方法などの改善につながっている。	B		B
関連波及効果	少人数指導による、学力向上を図った	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報償費、旅費、負担金補助及び交付金	518	一般財源 518
	実績	報償費、旅費、負担金補助及び交付金	306	一般財源 306
(平成30年度)	予算	報償費、旅費、負担金補助及び交付金	595	一般財源 595
(平成31年度)	計画	報償費、旅費、負担金補助及び交付金	595	一般財源 595
(平成32年度)	計画	報償費、旅費、負担金補助及び交付金	595	一般財源 595

教育委員の意見・指摘	
<p>少人数学級による学力向上と共に、児童個々に達成感を持たせるよう、指導力の向上に努めて頂きたい。 教える技術と共に、人間としての魅力、児童を引きつける魅力を持った先生を期待します。</p>	

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 (○)その他		
2. 学校教育の振興 2) 義務教育 (2) 中学校教育	施策 (P28) ①教育機能の整備	実施期間	継続	団体等	中学校組合

平成29年度実施状況	
実施状況	◇教育施設の充実 ・ビジネスフォン整備 ・学校業務支援システム導入 ・部活外部指導
成果等	・安定的な学校運営がなされている。 ・教員の研修参加により指導力の向上が図られ、授業に活かすことができた。
課題	・教育環境の充実と生徒の学方向上に努めたい。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	教育環境の整備の重要度は極めて高い	A	重要ではあるが、メリハリを勧告する。	A
コストパフォーマンス	中学校組合による運営により、活力ある学校運営がなされている	B		B
目標等の達成度	前年同様	C		C
関連波及効果	特に何もない	C		C

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	負担金補助及び交付金	13,503	一般財源 13,503
	実績	負担金補助及び交付金	12,669	一般財源 12,669
(平成30年度)	予算	負担金補助及び交付金	14,666	一般財源 14,666
(平成31年度)	計画	負担金補助及び交付金	14,666	一般財源 14,666
(平成32年度)	計画	負担金補助及び交付金	14,666	一般財源 14,666

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 ()団体 (○)その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (2)中学校教育	施策	(P28)	実施期間	継続	団体等	中学校組合
		②社会教育分野の取り組み				

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・村民運動会、盆踊り大会など地域行事への参加がみられた。 ・村民運動会、盆踊り大会、チューリップマラソンにボランティアとして参加した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・村民運動会やチューリップマラソンのボランティアスタッフとして楽しみながら参加。毎年スタッフ参加することが定着し、貴重な地域活動の場になっている。 ・村民運動会や盆踊り大会のスタッフとして参加することによって、運営に参加する楽しさや充実感を感じながら協働することができた。 ・育った地域へ貢献する活動や村行事の運営に参加することで地域行事に親しみをもち、自尊感情を高め、幅広く地域の人とふれあうことができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した取り組みが重要。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	地域に溶け込んだ中学生の活動は、重要度が高い。	B		B
コストパフォーマンス	既存の地域行事を利用した。	B		B
目標等の達成度	ボランティア参加は継続している	B		B
関連波及効果	地域行事に参加することにより、地域での子供たちへの関心が高まり、よりよい社会環境の形成につながった。	B	地域の方と触れ合う良い機会だと思います。	B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	-	
	実績	-	
(平成30年度)	予算	-	
(平成31年度)	計画	-	
(平成32年度)	計画	-	

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
2. 学校教育の振興 2)義務教育 (2)中学校教育	施策	(P28) ③関係組織の連携強化	実施期間	継続	団体等 中学校組合、PTA等

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・箕蚊屋中校区地域安全協議会による、児童・生徒の下校時を中心とした、青色回転灯車によるパトロールの実施。 ・青少年育成日吉津村民会議による、夏休み期間を中心とした、村ミニパトによる村内夜間パトロールの実施。 ・米子市少年育成センターと連携し、学校、警察等関係機関合同で、イオン日吉津店内のパトロールを実施。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・パトロールすることにより、保護者や地域住民が地域の環境を把握することができ、地域での見守り支援に関心が高まった。 ・パトロール時に子どもに声掛けすることにより、非行問題の防止につながった。 ・店内パトロールにより、非行問題の防止につながった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携の継続。

平成29年度施策評価			
評価項目	庁内評価	教育委員評価	
目的等の重要度	安全・安心の学校生活の確保は、重要度が高い。	B	B
コストパフォーマンス	ボランティアの協力。	B	B
目標等の達成度	米子市少年育成センター、学校、警察等関係機関との情報共有。	B	B
関連波及効果	地域への防犯意識	B	B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	-	
	実績	-	
(平成30年度)	予算	-	
(平成31年度)	計画	-	
(平成32年度)	計画	-	

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ①学習機会、内容の拡充・支援	実施期間	継続	団体等

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの日まつり・・・(5月5日・参加者69人)村子連と青少年育成村民会議の連携により実施した。 ・成人式の開催・・・教育委員会が主体で式典を開催(1月3日・参加者33人)。日吉津村図書館が選書した20冊の中から、本人が選択した本を贈呈した。 ・家庭教育講演会・・・就学児健診にあわせ、保護者に対し実施した。 ・ヴィレッジ☆カレッジ・・・ヴィレステひえづに来館するきっかけになるよう、5つの講座を開催した。
成果等	・地域の交流が広がった。
課題	・学んだ内容を地域に還元する主体的意識や場をつくる必要がある。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	学習機会等の拡充は生涯学習の村づくりのために重要度が高い。	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。	C		C
目標等の達成度	団体ごとの主体性の確立はできてきているが、各団体間の連携には課題が残る。	B		B
関連波及効果	ヴィレステひえづが学びの場となるきっかけになった。	A	ヴィレステは非常に効果的に活用されている	A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報償費、負担金補助及び交付金等	904	県支出金 175 一般財源 729
	実績	報償費、負担金補助及び交付金等	843	県支出金 175 一般財源 668
(平成30年度)	予算	報償費、負担金補助及び交付金等	3,282	県支出金 175 一般財源 3,107
(平成31年度)	計画	報償費、負担金補助及び交付金等	1,173	県支出金 175 一般財源 998
(平成32年度)	計画	報償費、負担金補助及び交付金等	1,173	県支出金 175 一般財源 998

教育委員の意見・指摘	
成人式に贈呈した本の感想文を募集してはどうだろうか。	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ①学習機会、内容の拡充・支援	実施期間	継続	団体等

平成29年度実施状況	
実施状況	◇地元就職し、村から通勤する場合に村奨学金返還額を助成する制度「日吉津村地元人材育成奨学金支援事業」を立ち上げた。
成果等	・村奨学金返還中の方に案内をしたが、申請が無かった。
課題	・今後返還が始まる方へも通知しているので、来年度以降居住人口増の一助になる。効果が出るまで時間がかかる。 ・これから借入れを計画している方は、返済計画が立てやすく、問い合わせもある。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	人口施策の一助となり、重要。	A	極めて重要とは思えない	A
コストパフォーマンス	今年度の申請は無かった。	E		E
目標等の達成度	今年度の申請は無かった。	E		E
関連波及効果	今年度の申請は無かった。	E		E

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	負担金、補助及び交付金	180 一般財源 180
	実績	負担金、補助及び交付金	—
(平成30年度)	予算	負担金、補助及び交付金	180 一般財源 180
(平成31年度)	計画	負担金、補助及び交付金	180 一般財源 180
(平成32年度)	計画	負担金、補助及び交付金	180 一般財源 180

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ②各種団体・グループの育成と指導者養成	実施期間	新規	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの日まつり」を村子ども会育成連絡協議会と青少年育成村民会議等が共催するなど連携を図りながら進めた。 ・村子ども会育成連絡協議会では、育成者研修会、リーダー研修、夏のキャンプ、資源回収、レク&クリスマス会を開催した。 ・青少年育成村民会議では、夏休み巡回パトロール、委員研修等を実施した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会活動では、子どもおよび育成者が主体的に活動することが定着してきた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動が定着しつつあるので、継続が必要。 ・村青少年育成村民会議の整理および充実が必要。

平成29年度施策評価					
	庁内評価			教育委員評価	
目的等の重要度	協働と参画のむらづくりにおいては重要度は高い。	A			A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。	C			C
目標等の達成度	青少年育成村民会議および青少年育成指導員の充実に課題が残る	D		行政主導から脱することの難しさを感じる	D
関連波及効果	地域人材の育成	C			C

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)					
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)	
平成29年度	予算	負担金補助及び交付金等	503	一般財源	503
	実績	負担金補助及び交付金等	501	一般財源	501
(平成30年度)	予算	負担金補助及び交付金等	610	一般財源	610
(平成31年度)	計画	負担金補助及び交付金等	610	一般財源	610
(平成32年度)	計画	負担金補助及び交付金等	610	一般財源	610

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	()村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ②各種団体・グループの育成と指導者養成	実施期間	新規	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	I-23に集約
成果等	
課題	

平成29年度施策評価				
	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度				
コストパフォーマンス				
目標等の達成度				
関連波及効果				

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	I-23に集約		
	実績			
(平成30年度)	予算			
(平成31年度)	計画			
(平成32年度)	計画			

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	()村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ②各種団体・グループの育成と指導者養成	実施期間	新規	団体等	

平成29年度実施状況

実施状況	I-23に集約
成果等	
課題	

平成29年度施策評価

	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度				
コストパフォーマンス				
目標等の達成度				
関連波及効果				

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)

年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	I-23に集約	
	実績		
(平成30年度)	予算		
(平成31年度)	計画		
(平成32年度)	計画		

教育委員の意見・指摘

--

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾・井上)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ④各種イベントの開催	実施期間	継続	団体等	盆踊り花火大会実行委員会 芸能大会実行委員

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り花火大会は例年通り8月16日に開催。自治会、企業より協賛金をいただき花火を打ち上げた。実行委員数40人、協賛企業数82社、賞品点数116点、抽選券配布数1,200枚。がいな万灯の演技披露、子ども万灯体験有。 ・芸能大会は、3月11日(日)開催。(3月10日夜リハーサル) 会場: ヴィレステヒえづ(ヴィレステホール) 参加組数15組、参加人数166人、実行委員32人で実施した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ◇盆踊り花火大会 <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に大会来場者の増加。ふるさとの夏祭りとして定着し、花火を楽しむ人が多くなった。 ・小学生に日吉津音頭とかんど踊りの練習会を実施したので、盆踊りではたくさんのお小学生が参加した。 ◇芸能大会 <ul style="list-style-type: none"> ・自主的出演が増え、自治会、各種団体に「芸能大会出演」が定着してきている。自主参加、自主運営も進んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ◇盆踊り花火大会 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校グラウンド、小学校周辺にゴミが落ちている。ゴミのマナーが悪い。 ◇芸能大会 <ul style="list-style-type: none"> ・最初から最後まで観る観客が少ない。観客が高齢化してきている。 ・会場の外にいる役員は中の様子が分かりにくい。

平成29年度施策評価			
評価項目	庁内評価		教育委員評価
目的等の重要度	ふるさと意識を高揚させ、村民の連携と活性化を図ったり、芸能大会、グループ活動の成果の発表、鑑賞の場の提供は極めて重要である。	A	実行委員会の目標はAが適切と思われるが、行政の立場からはBが良いのでは。 A
コストパフォーマンス	寄付金集めも含め、実行委員を中心に大会準備から後片付けまで手作りの大会	A	A
目標等の達成度	自治会、商工会、各種団体の協力があり、花火の打上げがあり、芝に座っての花火見物もでき、世代、地域を超えた交流の場となった。	A	A
関連波及効果	村民の自主的な出演が見られる。寄付による花火打ち上げにより、村民の意識の共有化ができつつある。	A	A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	役務費、借上料	70	一般財源 70
	実績	役務費、借上料	68	一般財源 70
(平成30年度)	予算	役務費、借上料	70	一般財源 70
(平成31年度)	計画	役務費、借上料	70	一般財源 70
(平成32年度)	計画	役務費、借上料	70	一般財源 70

教育委員の意見・指摘

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	()村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策 (P29) ④各種イベントの開催(ヴィレステ ひえづ)	実施期間	継続	新規	

平成29年度実施状況	
実施状況	日吉津におけるゲストティーチャー募集のチラシ作成、募集開始。 ヴィレステ拠点事業として、村内の方に講師を依頼し、陶芸絵付け教室を開催(3月24日) 村内在住の高校生へ高校生同窓会を開催(3月7日) 夜の図書館に合わせた高校生ボランティア活動(ミニ縁日など) (I-20、I-21、I-24を集約)
成果等	ゲストティーチャーを募集したが、申込みがなかった。人材の発掘・活用について情報共有ができなかった。 陶芸絵付け教室は、当日参加ができ、いつもは参加しにくい若い年代の方や遠方の方の参加があり、ヴィレステを知ってもらえた。 同窓会に4人参加したが、その後の活動に広げることができず、次年度に持ち越した。
課題	ゲストティーチャーをお願いしたい方に具体的な活動やの説明、交渉する事が必要。 ゲストティーチャーと利用者とのマッチングを行う。 グループの育成につながる体験教室の数を増やす。 ヴィレステひえづを主会場に行うさまざまなイベントに高校生の活躍の場を作り、積極的な参加を呼び掛けることが必要。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	村内の人材を発掘する重要な施策である	B	人材発掘は重要であると思うので、今後期待しています。	B
コストパフォーマンス	経費に見合った事業が行えた。	C		C
目標等の達成度	募集を開始したが申込みがなかった。事前に活動計画が必要	C		C
関連波及効果	ヴィレステの事を知ってもらう事ができた	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報償費・需用費・役務費	107	一般財源 107
	実績	報償費・需用費・役務費	53	一般財源 53
(平成30年度)	予算	報償費・需用費・役務費	40	一般財源 40
(平成31年度)	計画	報償費・需用費・役務費	40	一般財源 40
(平成32年度)	計画	報償費・需用費・役務費	40	一般財源 40

教育委員の意見・指摘

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	()村直営 (○)団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	施策	(P29) ④各種イベントの開催 (グループ育成事業)	実施期間	新規	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	I-23に集約
成果等	
課題	

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度				
コストパフォーマンス				
目標等の達成度				
関連波及効果				

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	I-23に集約		
	実績			
(平成30年度)	予算			
(平成31年度)	計画			
(平成32年度)	計画			

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
3. 社会教育とコミュニティ活動	(P29) ⑤民俗資料館の管理運営と地域文化振興	実施期間	継続	団体等	

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 日吉津小学校3年生児童が社会科の授業で見学した。 ふれあいフェスタにあわせて資料館を開館し、イベント(クイズラリー)を開催した。 ヴィンステひえづで民俗資料館の出張展示を実施した。 村指定文化財9箇所の管理委託。村指定文化財2件を新たに指定。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 小学生の学習に利用することにより子どもたちに視覚的な教材を提供することができた。 実際に使われていたものを保管・展示していくことで、地域の歴史や文化について関心を高める機会につながった。 ふれあいフェスタにあわせて開館することで、様々な年代の入館者があり、世代間の交流につながった。 ヴィンステひえづで出張展示を実施したことにより、施設利用者の多くに民俗資料館の収蔵品をご覧いただいた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 民俗資料館の効果的なPRが必要である。

平成29年度施策評価		
評価項目	庁内評価	教育委員評価
目的等の重要度	地域への愛着と誇り、歴史文化への興味関心を育む拠点として、重要度が高い。 B	B
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。 C	C
目標等の達成度	小学校での授業や教育委員会の事業で民俗資料館を活用した。 B	B
関連波及効果	村民のふるさと意識の向上に期待できる B	B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 委託料等	1,371	県支出金 34 一般財源 1,337
	実績 委託料等	1,349	県支出金 77 一般財源 1,272
(平成30年度)	予算 委託料等	613	県支出金 55 一般財源 558
(平成31年度)	計画 委託料等	613	県支出金 55 一般財源 558
(平成32年度)	計画 委託料等	613	県支出金 55 一般財源 558

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(梅林佑)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	()村直営 ()団体 (○)その他		
4. 社会体育の振興 1) スポーツ・レクリエーション活動と施設整備	施策 ① 村民総スポーツの推進	(P29)	実施期間	継続	団体等
			チューリップマラソン・12時間ソフトバレー実行委員会		

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・第39回チューリップマラソン(4月9日:1,823人) ・第16回記念大会”熱血”12時間ソフトバレーボール大会(6月3日:378人) ・カルチャー土曜塾(ラダーゲッター、カローリング、バウンスボール、ドッチボール等)
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・各大会とも定着してきており、体力づくりに役立っている。 ・今回のチューリップマラソンは雨天の影響により、約1,800人の参加となった。 ・カルチャー土曜塾では、児童が普段できないようなスポーツを行う事で、スポーツに更なる興味を持ってもらう事ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップマラソンは事務局主導の流れが強く、実行委員会の見直し等が必要。また、運営上、簡素化できる部分については実行委員会で検討し、負担を減らすような努力が必要。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	村民の健康・体力づくりの重要度は極めて高い	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。	C		C
目標等の達成度	当初計画していた事業が実行できた	C		C
関連波及効果	村外の方がイベントに参加することにより、村のPRにつながった。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度		支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	賃金・補助金	1,600	県支出金 360 一般財源 1,240
	実績	賃金・補助金	1,583	県支出金 360 一般財源 1,223
(平成30年度)	予算	賃金・補助金	1,678	県支出金 450 一般財源 1,228
(平成31年度)	計画	賃金・補助金	1,600	県支出金 360 一般財源 1,240
(平成32年度)	計画	賃金・補助金	1,600	県支出金 360 一般財源 1,240

教育委員の意見・指摘	

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(梅林佑)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	()村直営 (○)団体 ()その他		
4. 社会体育の振興 1) スポーツ・レクリエーション活動と施設整備	施策 (P30) ②各種大会の開催	実施期間	継続	団体等	村体育協会、村民運動会実行委員会

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・村民運動会(10月8日:約1,300人(競技参加者延べ人数)) ・村民球技大会(7月2日 ソフトボール:112人 ペタンク:50人) ・村民球技大会(9月10日 グラウンドゴルフ:90人 ソフトバレーボール:82人) ・村民球技大会(3月4日 バドミントン:75人 卓球:48人) ・バドミントン教室(毎週土曜日開催)
成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・村民運動会は、村民主体の実行委員会形式で開催できた。 ・各種球技大会は、参加者の体力向上に寄与するとともに、自治会ごとの交流・親睦の場として役立った。 ・バドミントン教室も小学校から大人まで幅広い年齢層の参加者があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・村民運動会競技の見直し ・ニュースポーツの普及(教室、大会)

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	地域の繋がり、交流、親睦の場は重要度が極めて高い	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた	C		C
目標等の達成度	昨年同様	C		C
関連波及効果	自治会対抗の大会であり、親睦が深まった	A		A

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 補助金	765	一般財源 765
	実績 補助金	674	一般財源 674
(平成30年度)	予算 補助金	765	一般財源 765
(平成31年度)	計画 補助金	765	一般財源 765
(平成32年度)	計画 補助金	765	一般財源 765

教育委員の意見・指摘

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	()村直営 (○)団体 (○)その他		
4. 社会体育の振興 1) スポーツ・レクリエーション活動と施設整備	施策 (P30) ③少年スポーツの健全育成	実施期間	継続	団体等	教育委員会 スポーツ少年団

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 野球(11人)、サッカー(17人)、ミニバスケットボール(34人)、空手(1人)、バドミントン(19人)の5種目の活動を行っている。 部員の増加を図るため、体験入部を実施した。(9人参加) スポーツ少年団の活動を村民全体に理解してもらうため、113chでPRした。 奉仕活動として、海岸クリーン作戦、日野川一斉清掃に参加している。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 各部とも週に1~3回の活動を行い、健全な青少年育成・体力向上に寄与している。 体験入部を実施し、4人の入団があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 種目ごとに団員数の偏りがある。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	青少年育成・体力向上の面からも、スポーツ少年団活動は重要度が極めて高い	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた	C		C
目標等の達成度	体験入部の実施もあり、団員が増加した	B		B
関連波及効果	奉仕活動を通じて地域に貢献している	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	補助金	758	一般財源 758
	実績	補助金	726	一般財源 726
(平成30年度)	予算	補助金	790	一般財源 790
(平成31年度)	計画	補助金	790	一般財源 790
(平成32年度)	計画	補助金	790	一般財源 790

教育委員の意見・指摘	

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
4. 社会体育の振興	1)スポーツ・レクリエーション活動と施設整備	施策	(P30)		
			④指導者の確保・育成		
			実施期間	継続	団体等
					教育委員会、スポーツ推進委員、スポ少本部

平成29年度実施状況

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県スポーツ推進委員研究大会(境港市)への参加(12月9日~10日) 西伯郡スポーツ推進委員連絡協議会研修会への参加(2月25日)
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修会等に参加することにより、他の市・町の指導者との交流が図れた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ少年団指導者の認定指導者研修会への参加推進

平成29年度施策評価

評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	各指導者間の共通認識の確保は重要度が高い	B	活動推進の前段に指導者の確保は重要と考える	B
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた	C		C
目標等の達成度	県、郡主催の研修会等に参加し、研鑽を深めた	B		B
関連波及効果	特に波及効果なし	C		C

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)

年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	-	
	実績	-	
(平成30年度)	費用弁償	99	一般財源 99
(平成31年度)	費用弁償	99	一般財源 99
(平成32年度)	費用弁償	99	一般財源 99

教育委員の意見・指摘

--

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他		
4. 社会体育の振興 1)スポーツ・レクリエーション活動と施設整備	施策	(P30) ⑤施設の適正管理と有効利用	実施期間	継続	団体等

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 各施設において、各種団体がスポーツ活動により体づくりを行い、村内外の企画による各種大会では、スポーツを通して交流する場となった。 2月にスポーツ振興審議会(1回)を開催し、施設の有効活用について審議した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 施設管理担当課間で連携を図り、施設の有効活用ができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 施設の更なる有効活用を図り、多くの方に施設を使用してもらう。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	施設の有効活用については重要度が高い	B		B
コストパフォーマンス	概ね当初計画していた予算で施策を実施できた	C		C
目標等の達成度	昨年同様	C		C
関連波及効果	特に波及効果なし	C	村外の団体等にも開放することが、村内にも好影響すると考える	C

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報酬	18	一般財源 18
	実績	報酬	9	一般財源 9
(平成30年度)	予算	報酬	18	一般財源 18
(平成31年度)	計画	報酬	18	一般財源 18
(平成32年度)	計画	報酬	18	一般財源 18

教育委員の意見・指摘	

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 ()団体 ()その他	
5. 人権尊重・同和問題への取り組み	施策	実施期間	H18～継続	団体等
	(P30) ①「あらゆる差別をなくす総合計画」の策定			

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす条例」に基づき計画案を策定し、「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす審議会」に諮問した。7月4日に答申を受けて「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」が策定された。 部落解放同盟鳥取県連合会執行委員長 村上成人さんを講師に招き、差別の現実に学ぶ委員研修会を実施した。
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす審議会」を2回開催し審議を深めた。7月4日に答申を受けて「日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」が策定された。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 総合計画の実施状況の把握、情報共有の方法。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	人権意識を持った行政事務の執行について重要度が高い。	A		A
コストパフォーマンス	審議会を予定回数(2回)実施した。	C		C
目標等の達成度	審議会を予定回数(2回)実施し、計画を策定した。	C		C
関連波及効果	役場職員、日吉津村人権・同和教育推進協議会と合同で委員研修を行った。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)				
年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算	報酬	39	一般財源 39
	実績	報酬	39	一般財源 39
(平成30年度)	予算	報酬	-	
(平成31年度)	計画	報酬	-	
(平成32年度)	計画	報酬	-	

教育委員の意見・指摘

第6次総合計画施策評価(H29)

担当課(教育委員会) 担当者(松尾、梅林智)

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう			実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
5. 人権尊重・同和問題への取り組み	施策	(P31)	実施期間	継続	団体等	
		②人権・同和教育研修の充実				

平成29年度実施状況	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 各事業を村人権・同和教育推進協議会と共同で実施した。 村人権・同和教育研究大会・・・講演「生きていることの輝き」(講師 石川達之さん)、中学生の人権弁論。参加者33人。 チューリップセミナー・・・計3回の講座(①小学生の人権学習発表・講演「災害と人権」講師 佐藤淳子さん。参加者64人。②講演「世の中逆さが面白い」講師 小谷博徳さん。参加者18人。③講演「同和教育は、生き方学びの教育」講師 大柄瑞穂さん。参加者16人。) 小地域懇談会・・・3自治会で開催(①下口、参加者16人、②樽屋、参加者15人、③富吉、参加者8人)
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 各部会の委員が主体となり、小地域懇談会の実施をはじめ、チューリップセミナー、委員研修会などの研修を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> リーダーの育成並びに村民全体の意識の高揚と啓発活動の推進が必要である。

平成29年度施策評価				
評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	人権尊重社会の実現は重要度が極めて高い。	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。	C		C
目標等の達成度	部会委員の主体性が向上した。	B		B
関連波及効果	自治会等での活動の活性化につながった。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)			
年度	支出の積算内訳	金額	財源内訳(特財等)
平成29年度	予算 報償費等	135	県支出金 30 一般財源 105
	実績 報償費等	134	県支出金 30 一般財源 104
(平成30年度)	予算 報償費等	199	一般財源 199
(平成31年度)	計画 報償費等	199	一般財源 199
(平成32年度)	計画 報償費等	199	一般財源 199

教育委員の意見・指摘

第1章 人を愛する豊かな心を育てよう		実施主体	(○)村直営 (○)団体 ()その他		
5. 人権尊重・同和問題への取り組み	施策 (P31) ③村人権・同和教育推進協議会の活動推進	実施期間	継続	団体等	村人権・同和教育推進協議会

平成29年度実施状況

実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 委員研修会、各種研修会(人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会ほか)への派遣参加。 小地域懇談会チューリップセミナー、村人権・同和教育研究集会を共催。 日吉津村における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす審議会と合同で差別の現実に学ぶ委員研修を実施した。(講師 部落解放同盟鳥取県連合会執行委員長 村上成人さん)
成果等	<ul style="list-style-type: none"> 小地域懇談会の実施をはじめ、チューリップセミナー、村研究大会、委員研修会を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 協議会活動を委員主体で活動出来てきた。今後も継続していくことが必要。

平成29年度施策評価

評価項目	庁内評価		教育委員評価	
目的等の重要度	人権尊重社会の実現は重要度が極めて高い。	A		A
コストパフォーマンス	概ね昨年の同様の予算で施策を実施できた。	C		C
目標等の達成度	部会委員の主体性が向上した。	B		B
関連波及効果	自治会等での活動の活性化につながった。	B		B

実績額と予算額等(支出の積算内訳・財源内訳:千円)

年度	支出の積算内訳		金額	財源内訳(特財等)	
平成29年度	予算	補助金	272	県支出金 108	一般財源 164
	実績	補助金	198	県支出金 108	一般財源 90
(平成30年度)	予算	補助金	299	県支出金 149	一般財源 150
(平成31年度)	計画	補助金	299	県支出金 149	一般財源 150
(平成32年度)	計画	補助金	299	県支出金 149	一般財源 150

教育委員の意見・指摘

--